小学校の先生を対象とした アンケート調査の結果について

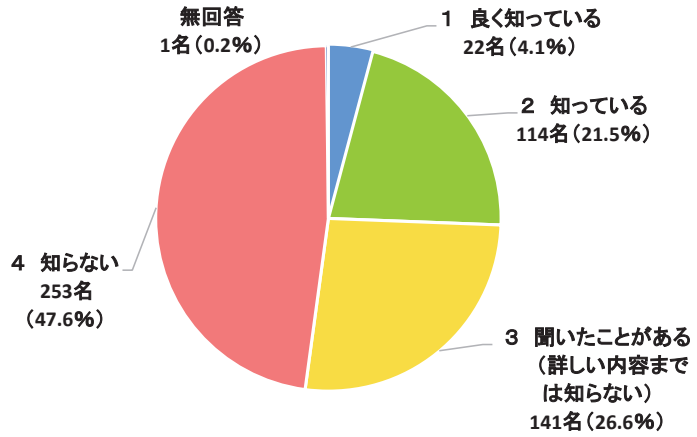
公益財団法人　大阪みどりのトラスト協会
牧野　純子

調査概要及び配布・回収状況

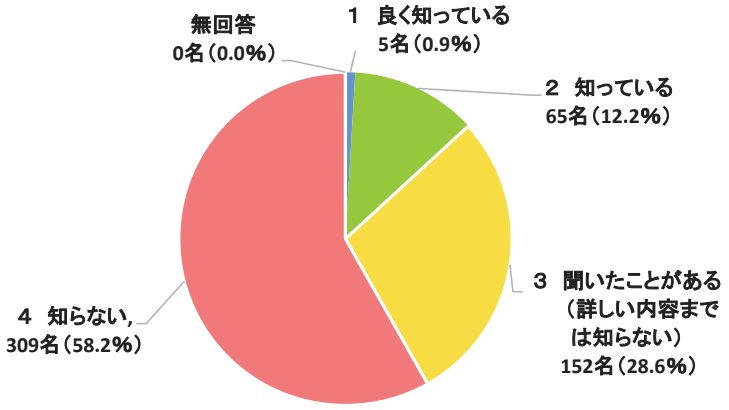
- 目　　的：森林ESDの推進に向け、教育現場における意向・ニーズを明らかにする
- 調査時期：令和元年7月～9月
- 調査対象：大阪府内の公立小学校の教員（各校3名ずつ）
- 調査方法：市町村教育委員会経由で調査票を配布、郵送またはWEB経由で回収
- 配 布 数：2,934票
- 回 収 数：531票（回収率18.1%）

※43市町村のうち、34市町村の先生から回答をいただきました。

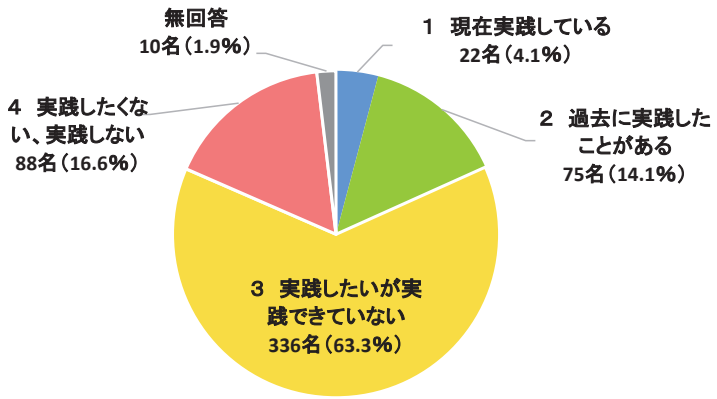
SDGs（「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標）についてご存知ですか。



森林ESD（持続可能な社会づくりに向け、問題解決に必要な能力を学び楽しむための教育素材として森林・里山を活用する人材育成システム）をご存知ですか。

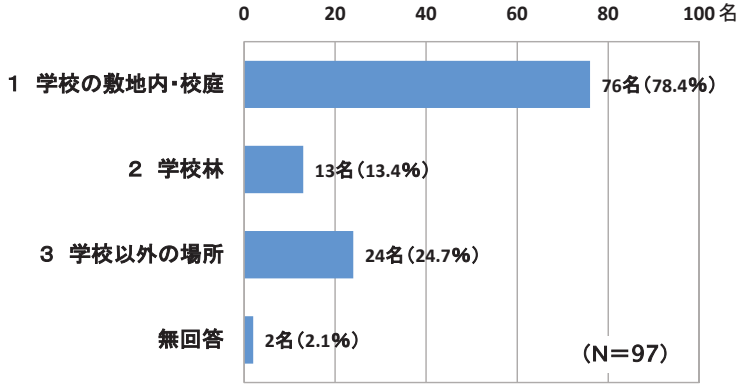


現在、または過去に「森林環境教育」や「森林ESD」を授業の一環として実践したことがありますか。



「現在実践している」「過去に実践したことがある」と回答した方

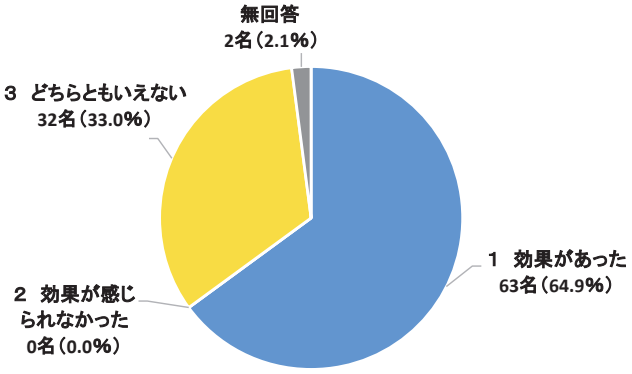
実施した場所は？（複数回答）



※学校以外の場所：近隣の公園・緑地、川、里山、林間学校・修学旅行先等

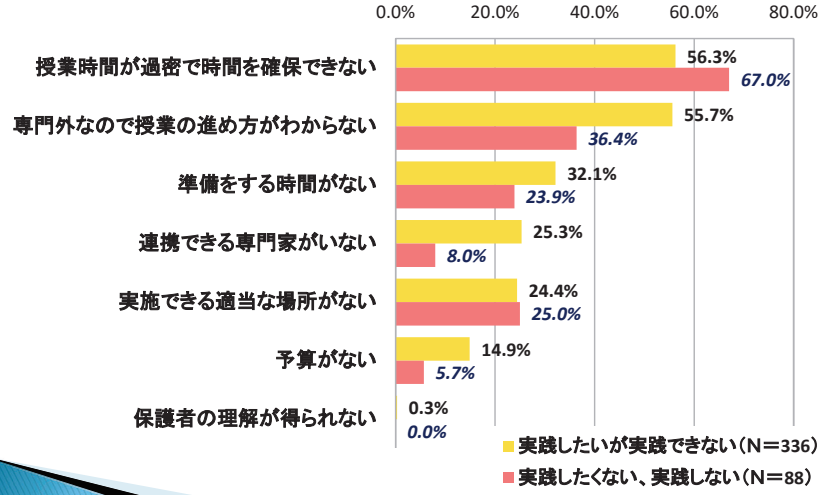
「現在実践している」「過去に実践したことがある」と回答した方

学習効果は？



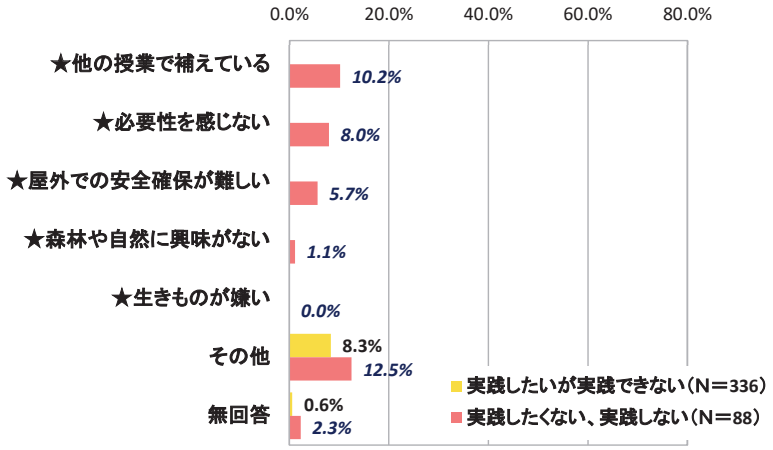
「■実践したいができていない」、「■実践したくない、実践しない」と回答した方

その理由はなんですか（その1）



「■実践したいができていない」、「■実践したくない、実践しない」と回答した方

その理由はなんですか（その2）



★印は、「実践したくない、実践しない」と回答された方のみの選択肢

調査結果より

わかったこと	取り組みの方向性
先生方の「SDGs」や「森林ESD」の認知度はそれほど高くない	先生方にSDGsやその推進に向けた森林ESDの意義について関心を持っていただく
「森林環境教育や森林ESD」を「実践してみた」と考えている先生が大勢いる	先生方の負担を軽減する、教科と連動したプログラム・モデルカリキュラムを試行する
先生方には「時間」の余裕がない	先生と専門家を結びつける機会づくりや情報提供、相談体制を整備する
森林ESDには専門性が必要と感じている先生が多い	
森林環境教育や森林ESDの学習効果が見えにくい	森林環境教育や森林ESDの有効性の見える化やデータ化の手法の研究、既存データに関する情報提供などを行う